

令和6年度 学校自己評価				評価		
	部署	具体的目標	具体的方策	個別	総合	次年度への主な課題と目標
1	事務局	来客・生徒への迅速な対応、経費の節減に努める。また不審者対策を行う	生徒・来訪客の応対を親切的確に行う	A	B	・生徒・来訪者への対応 保護者および学外からの来訪者に対して親切かつ丁寧な対応を継続していく。 ・コスト意識の醸成 光熱費・消耗品等を中心に職員・生徒の一人一人がコスト意識を高めていく。 ・関係機関への提出文書・回答文書 提出期限厳守は当然ながら、質の高い報告内容としていく。 ・電話対応および窓口対応力の向上 常に相手目線で丁寧な応を心掛けることで、満足度の向上を図る。
			節水・節電をことある毎に職員・生徒に呼びかける	B		
			不審者の侵入を教員と連携し、その防止に努める	B		
			関係機関への提出文書・回答文書について正確性の向上と期日厳守を図る	A		
			積極的な挨拶と声かけを徹底し、接客技能の向上と防犯対策を図る	A		
2	広報部	関係機関と連携し、広報活動を活発に行い、本学園の教育方針の広報・啓蒙に努め、生徒募集に寄与する。	小学校・中学校・塾・予備校と頻繁に連絡をとり本校教育について啓蒙を深める	B	B	
			本校教育を浸透させるために、学園祭・オープンキャンパス・体育祭等学校行事に積極的に係わり、学園来訪者等に広報・啓蒙に努める	A		・沖縄県内はもとより県外、海外からの入学者を増加させるため、校内および校外での学校説明会・相談会の開催回数や質を改善する。
			本学園HPを充実させ、学校案内の作成、PTA新聞を作成し、広報活動に努める	A		・本校の教育活動の成果をより効果的に広報するため、ホームページや出版物の質を高める
			校内および校外での入試説明会・相談会の開催回数や質を改善する	B		
			本校の教育活動の成果をより効果的に広報するため、ホームページや出版物の質を高める	A		
3	異文化交流部	情報を全生徒保護者に伝達し、全生徒に異文化交流の機会を提供できるようにする。	異文化交流プログラムの情報が個々の生徒や家庭に正確かつ効果的に提供する	A	B	
			プログラムに参加する生徒に事前研修を徹底し、安全性を確保、かつ習得効果の大きなプログラムを提供する	A		・長期留学に関する学校内規約を保護者用にまとめて配布できるようにする。
			プログラムから帰国した生徒への的確な事後報告の機会を提供し、適切な進路指導を行う	B		・校内主催の短期留学と官公庁主催による奨学金の支給を伴う短期研修に関する校内規約を保護者用にまとめて配布できるようにする。
			全校生徒に異文化体験の機会を提供できるよう、広報活動や説明会の質を高める	B		・全校生徒に異文化体験の機会を提供できるように他国の中高と連携を図り計画する。
			学年主任やクラス担任との連携・連絡をしっかりと構築する	B		・学年主任及び学級担任に留学の内規を共有する。 ・研修旅行中に協定校との交流が図れるように手配する。 ・高校間の交換留学の実現を図る。(豪州・英国)
4	学寮(尚学舎)	寮則にのっとって規律正しい寮生活を送り、連帯感を高めていくよう指導する	入寮生への寮則の徹底を図り、規律性を保つ	A	A	
			寮内の生活、環境美化やプログラム運営で、寮生の自発的な取り組みを促す	A		・個室の清掃がしっかり出来ない生徒への指導の徹底。
			寮生や保護者とのコミュニケーションを徹底し、信頼関係を構築する	A		
			舍監相互の連絡体制を構築し、寮教育の一貫性を保つ	A		
			各寮の運営においてそれぞれの設置趣旨を徹底し、入寮生の満足度を高める	A		
5	中学教務部	生徒の志望大学合格8割以上を目指したカリキュラム、授業や家庭学習のあり方を研究すると共に、グローバル社会で信頼され、活躍できる人材を育成する	チェックテスト、定期考查を定期的に実施し、その結果をもとに特別授業を行うことで未習得の生徒を出さないように努力する	A	B	
			定期的に模擬試験を行い、その結果を教員、生徒、保護者に伝達するだけではなく、その結果をもとに現状の学力分析を行い、次回までの課題やその方策を検討する	A		・左の各項目において、中学・高校・学年間で達成度にバラつきがあるので、全体を上方修正できるように整える。
			生徒の現状に関するさまざまな情報を、学年会やコース会を通して教員間で共有すると共に、毎学期の教育相談を充実させる。また、問題のある生徒に対して全員一丸となって取り組み、生徒にとって最もよい解決を目指す	A		・全職員で各学年ごとの成績分析会を行った。今後も継続し、学校全体で全学年の学力向上に努めたい。
			国際社会で信頼される、文武両道の教養人を育成するために、「教養」「倫理感」「文化力」「コミュニケーション力」を高めるために、全職員一丸となって取り組む	B		・今年度よりフォローアップ講座を復活させ、未習得の生徒を出さないように努めた。 ・諸行事の報告・連絡・相談・決定のスピードを上げ、共有を徹底する。
			事前に計画をたてて、円滑な学校運営に努める	B		・こなす・回す、だけでなく生徒の実績を伸ばす取り組みを行う。
6	中1学年	まずは、中学校生活に慣れ、将来の大学受験に向けた、基本的学力を習得し、応用力をつける指導をする。また、様々な学校行事や部活動を通して、学校の楽しさ、学ぶ意欲を感じる指導を行う。	習得目標に基づく授業を通して、「わかる授業」から「出来る授業」を目指し、共同学習も採り入れた全員を伸ばす授業の徹底を図る	A	B	
			ペネッセ模試および習得目標達成率の目標達成を図る	B		・ペネッセ模試(全国偏差値) <総合>SCC→51.7以上 SPC→57.5以上
			全員が英検の目標級を取得できるよう指導する	A		・英検 全員3級以上
			全員が沖縄空手の目標級を達成できるよう指導する	A		・沖縄空手 全員3級以上
			全員がボランティア、異文化体験の目標を達成できるよう指導する	B		・ボランティア、異文化体験に参加を促す ・伸び悩みの生徒へのフォローアップ強化 ・学年は一つであり、コース間に沖尚生としての優劣は存在しないことの再確認
7	中2学年	学校が掲げる目標項目に、学校生活の中で自然に取り組み、将来の大学受験に向けた、基本的学力を習得し、応用力をつける指導を行う。また、諸行事を通して連帯感を育む。	習得目標に基づく授業を通して、「わかる授業」から「出来る授業」を目指し、共同学習も採り入れた全員を伸ばす授業の徹底を図る	A	B	
			ペネッセ模試および習得目標達成率の目標達成を図る	B		・ペネッセ模試(全国偏差値) <総合>SCC 52以上 SPC 60以上
			全員が英検の目標級を取得できるよう指導する	A		・英検 全員準2級以上
			全員が沖縄空手の目標級を達成できるよう指導する	A		・沖縄空手 全員3級以上
			全員がボランティア、異文化体験の目標を達成できるよう指導する	A		・異文化交流及びボランティア活動への積極的な参加を促す ・成績不振生徒への面談およびフォローアップ講座の開講 ・自学自習できる意識を育てる

令和6年度 学校自己評価			評価		
	部署	具体的目標	個別	総合	次年度への主な課題と目標
		月1回の学年会を開催し、効果ある授業、学校行事の精選、学級活動・部活動の活性化に取り組み、楽しい学校作りを目指す	A		
8	中3学年	学校が掲げる目標項目に、学校生活の中で自然に取り組み、将来の大学受験に向けた、基本的学力を習得し、応用力をつける指導を行う。また、諸行事を通して連帯感を育む。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ベネッセ模試(全国偏差値) <総合>SCC 53以上 SPC 58以上 ・英検 全員準2級以上 ・沖縄空手 全員2級以上 ・異文化交流及びボランティア活動への積極的な参加を促す ・成績不振生徒への面談およびフォローアップ講座の開講 ・高校の先生方との連携を密にとり、生徒の情報共有と大学受験を見据えた授業を指導・研究
			B		
			A		
			A		
			A		
			B		
15	中学 生徒指導	生徒指導のない学校を目指し、沖尚生らしい校風を構築するために、積極的な生徒指導を行い自立、自覚を持った生徒を育成する	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導提要に基づき本校の教育目的に照らして適切な内容か、現状に合う内容に変更する必要がないか、絶えず見直しを行う
			B		
			A		
16	中学 進路指導	本人の志望、能力、経済的状況を勘案し、「行ける大学」ではなく、「行きたい大学」への進路指導ができるように、コースや学年そして学級と連携を密にする。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・高校進路部と連携し、進学に関する情報等を充実させる。 ・現在の方策を継続しつつ、検証・改良を行っていく。 ・現在の方策を継続しつつ、検証・改良を行っていく。 ・県内県外の各種研究会に参加してデータを収集し、各科、担任に還元する。 ・将来の職業を見据えた進路選択が行えるように、情報収集を行い、生徒・保護者へ還元する。
			A		
			A		
			B		
			B		
			B		
17	中学 保健	生徒・教職員の心身の健康を図り、自己の健康管理意識の育成と自発的な健康増進を目指す。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が感染予防対策を日常生活の中で実践できように支援する。 ・生徒に自己の健康管理の在り方を日常生活の過ごし方、感染予防対策との関連について考え方、健康管理ができるように支援する。 ・生徒が心身の健康課題について相談しやすい環境づくりを工夫する。 ・生徒の健康課題についてカウンセラー、教員との情報共有を行い課題解決に向けて協働し、取り組む。必要時は保護者への支援を行う。
			B		
			A		
			A		
5	高校 教務部	生徒の志望大学合格8割以上を目指したカリキュラム、授業や家庭学習のあり方を研究すると共に、グローバル社会で信頼され、活躍できる人材を育成する	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学力面において、各学年の生徒の現状分析はできているものの、具体的な対策にまで落とし込めていない。各教科を中心に、入学時における生徒の学力低下を踏まえた対応策をしっかりと進める。 ・教務全般の業務を再整理し、項目ごとの運営を円滑にする。
			B		
			B		
			A		
			A		
9	高1学年	内部進学生は、高校への接続をスムーズに行い、かつ発展的に高校課程を学習できるように、中学と高校が連携して指導を行う。外部進学生については高2までに内部進学生と同じ進路になるよう、学習指導に取り組む。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・志望校合格にむけた指導のあり方について具体的な方策が必要であり、この点に向けた教員の意識の改革が必要である。次年度にあつては学力が伸び悩む生徒に対して向き合い一人一人ケアすること。現状を分析すること。教科別に授業、カリキュラムの見直しを行うこと。達成状況を都度確認すること。生徒の学力向上に向けたモチベーション向上を図り、意見交換を行うことなど、今後も誰一人取り残さず、全員合格にむけて取り組む。
			B		
			A		
			A		
			A		
			B		
		模擬試験や定期考査、チェックテストの結果をもとに、未習得者の完全習得を目指して、補講・個別指導を行う	B		<ul style="list-style-type: none"> ・高3 国公立大&大学校の合格者80人(県外40人・県内40人)
		理系教科の強化を図り、生徒ごとの科目別成績状況、志望校合格の可能性をチェックし細やかな指導を行う	B		

令和6年度 学校自己評価				評価		
部署	具体的目標	具体的方策	個別	総合	次年度への主な課題と目標	
10 理系 コース	生徒及び保護者へ細やかに入試情報を提供し、コースが一体となって進路指導・受験対策を行う。また、教務＆進路指導部と連絡を密にし、時宜を得た進路説明会や入試対策を行なう。	進路学習会や三者面談、個別面談などを通して、生徒の進学意識を高め、保護者への情報還元を図る	A	B	・推薦系受験での合格者増加を目指し、その対策を発展させると ・高2 国公立A判定以上15人 B判定35人 C判定45人 ・英検高2 全員2級以上 ・空手 内生80%初段以上 外生の80%以上が2級以上 ・高2全員がボランティア年2回以上、異文化体験年1回以上 ・生活習慣を徹底し授業での集中力向上を目指す ・学校の全内容に全力で取り組む姿勢を育てる ・社会人になっても活かせるマナー力を磨く ・問題解決能力を身に付けるように指導する	
		模擬試験および習得目標達成率のコース目標の達成を図る	A			
		全員が沖縄空手、英検の学年目標を達成できるよう指導する	A			
		全員がボランティア、異文化体験の目標を達成できるよう指導する	B			
		大学合格実績のコース目標を達成する	B			
11 文系 コース	志望校合格を目指し、生徒の学力向上を全力でサポートする。また、保護者に対して入試情報を提供し、情報を共有する。	模擬試験や定期考查、チェックテストの結果をもとに、未習得者の完全習得を目指して、補講・個別指導を行う	B	B	・高3国公立大学合格者数35名(国立文系30名、私立文系5名) ・推薦系の合格者数の増加。 ・英検の大学受験における有用性の周知。 ・少しでも早い進路決定。	
		文系教科の強化を図り、生徒ごとの科目別成績状況、志望校合格の可能性をチェックし細やかな指導を行う	A			
		進路学習会や三者面談、個別面談などを通して、生徒の進学意識を高め、保護者への情報還元を図る	A			
		模擬試験および習得目標達成率のコース目標の達成を図る	B			
		全員が沖縄空手、英検の学年目標を達成できるよう指導する	B			
		全員がボランティア、異文化体験の目標を達成できるよう指導する	B			
		大学合格実績のコース目標を達成する	A			
12 東大・難関 コース	コース目標大学への合格を目指し、生徒の学力向上を全力でサポートする。また、保護者に対して入試情報を提供し、情報を共有する。	模擬試験や定期考查、チェックテストの結果をもとに、未習得者の完全習得を目指して、補講・個別指導を行う	A	B	教科間の指導力のバラつきを小さくし、難関大受験生の期待に応えられる環境を整える。 一部の教師に負担偏重が出ないように業務内容の調整を図る。	
		難関大学受験を見据え、二次試験型、理社選択科目の強化を図り、生徒ごとの成績状況、志望校合格の可能性をチェックし細やかな指導を行う	B			
		進路学習会や三者面談、個別面談などを通して、生徒の進学意識を高め、保護者への情報還元を図る	A			
		模擬試験および習得目標達成率のコース目標の達成を図る	A			
		全員が沖縄空手、英検の学年目標を達成できるよう指導する	A			
		全員がボランティア、異文化体験の目標を達成できるよう指導する	A			
		大学合格実績のコース目標を達成する	B			

令和6年度 学校自己評価				評価		
	部署	具体的目標	具体的方策	個別	総合	次年度への主な課題と目標
13	国際文化コース	世界各地で11月に行われるIB試験結果を利用し、国内の国公立大学、私立大学と海外大学への受験をサポートする。ManageBacを使用して保護者が生徒の成績を確認できるようにする	IELTS 対策、英検対策に力を入れ、英語力向上に努める	A	A	・2~3年の全員がIELTS受験のために準備を行う。その成績を国内外大学の受験に利用する。 ・英検対策のための授業を提供して卒業までに全員が準1級以上を目指す。 ・今年度は1名ディプロマが取得できなかったので、来年度は全員合格を目指す。 ・国内大学受験希望者が増えているため、海外大学の情報収集があまり共有されていなかった。海外大学進学者に向けてさらなる情報を提供できるようにする。 ・全員が沖縄空手の学年目標を達成できるよう指導する。 ・CAS活動を通して、異文化交流やボランティア活動への自主的で積極的な参加を促す。 ・国内外を問わず生徒が志望する大学への合格を全員でサポートする。
			全員がIBディプロマが取得できるよう丁寧に指導する	B		
			英語圏大学の情報を収集し、広く生徒・保護者へ情報を提供する	B		
			IBのスコアを利用して国内外大学へ進学希望する生徒の合格を目指し、補講・個別指導等を行う	A		
			全員が沖縄空手、英検の学年目標を達成できるよう指導する	A		
			全員がボランティア、異文化体験の目標を達成できるよう指導する	A		
			大学合格実績のコース目標を達成する	A		
14	体育コース	スポーツを通して、人間力と精神力を鍛え、学力を伸ばして、上級学校進学を目指す。各部とも県大会は勿論のこと全国大会上位入賞を目指す。	全員が沖縄空手、英検の学年目標を達成できるよう指導する	B	A	・柔道部の全国大会出場、野球部の甲子園出場、テニス部の全国大会準優勝など多くの素晴らしい実績を残すことができた。 ・3年生は国公立を含む有名私大へ多くの生徒が合格し進学実績に貢献。数Ⅱ数Bの履修が足りないために希望しても指定校推薦を受けることができない大学もあり、次年度に向けて授業カリキュラム改善が必要である。
			野球、柔道、テニス、の各部の指導を適切に行い、県大会、全国大会において上位入賞を果たす	A		
			朝自習、読書指導、部活動練習が十分に行われるよう指導する	A		
			早朝清掃等のボランティア活動が十分に行えるよう指導する	A		
			進路指導部や学年会とも連携を図りながら、進路指導、進路説明会を実施する	A		
			大学合格実績のコース目標を達成する	A		
15	高校生徒指導	生徒指導のない学校を目指し、沖尚生らしい校風を構築するために、積極的な生徒指導を行い自立、自覚を持った生徒を育成する	生徒会を中心に学園祭、オープンキャンパス、体育祭、遠足等行事を取り組み学校行事の質向上を図る	A	B	・生徒の公共の交通機関のマナーは継続指導が必要である。また、保護者の送迎時のコンビニ等の駐車マナー改善の周知徹底も上記同様に必要であると考える。 ・いじめ(SNSのマナー等)に関する学習会を開くことができた。次年度も継続して実施したい。
			学園の制服に誇りをもち、礼節を重んじ、授業活動等5分前に行動し、明るくキビキビした行動がとれるようにする	B		
			公共のマナー、交通安全マナー向上をはかり、学校周辺の朝清掃などボランティア活動にも積極的に関わる寛容な姿勢を醸成する	B		
16	高校進路指導	本人の志望、能力、経済的状況を勘案し、「行ける大学」ではなく、「行きたい大学」への進路指導をができるように、コースや学年そして学級と連携を密にする。	学年会、コース会と連携し、生徒、保護者への進路相談会を定期的に開催する	A	A	・国公立大学合格者のうち進学者の割合は約60%。40%の生徒が学校推薦型選抜などで合格した私立大学へ進学している。今後は国公立大学を第一志望とする生徒の合格率をあげていく。 ・総合型選抜・学校推薦型選抜の指導体制を強化していく。 ・進路指導部内の業務分掌の担当者を明確化する。 ・PTA進路部(仮)との連携を図る。
			全国模擬試験を開催し、その結果のデータを作成し、各科、コースそして学級担任に提供する	A		
			必要に応じて大学入試課や外部講師を招聘し、大学説明会や出前講座等を開催する	A		
			各種研究会に参加し、データを収集し、各科、コース、担任に還元する	B		
			将来の職業を見据えた進路選択が行えるように、大学の入試等の情報を収集し、生徒・保護者へ提供する	A		
17	高校保健室	生徒・教職員の心身の健康を図り、自己の健康管理意識の育成と自発的な健康増進を目指す。	カウンセラー、養護教諭とでカウンセリングを工夫しクラス担任と共にカウンセリングに当たり、生徒・教員の心身の健康に務めさせる	B	B	・生徒自らが健康に充実した学校生活が送れるように支援に努める。 ・近年、様々な感染症が増えているので感染予防対策を日常生活で実践できるように取り組んでいきたい。 ・生徒の心身の問題を常時受け付け、担任、学年主任、カウンセラーと連携を取り生徒の学校生活の支援をする。
			心身の健康に関する相談を常時受け付け、生徒が充実した学校生活を送れるようにサポートする	A		
			思春期の心身の問題をカウンセラーや担任、養護教諭で連携を取りながら対応し、生徒や保護者の支援に務める	B		
			生徒の健康は基本的生活習慣のあり方からを認識させ自己管理に務めさせる	A		
18	図書館	図書館を計画的に整備し、生徒の読書習慣の育成に努め、生徒の読書・学習の展開する場とする。	新刊図書の紹介、リクエスト購入、不在図書、破損図書の再度購入	A	A	・昨年度に入らなかった資料の除籍 ・リクエスト購入と新刊の増加 ・来語に関する図書の充実 ・図書利用以外にも活用できるよう努める ・外
			各種イベントの告知、参加への促し	A		
			IT技術の発展により、他学校図書館との情報共有、問題解決	B		